

「七尾リハビリ神社を建立しました」

リハビリテーション科

年末年始は、色々な「作業」が目白押しです。例えば、大掃除をする、町内の餅つき大会に参加する、年末ジャンボ宝くじを買う、年賀状の準備をする、新年を迎える準備として正月飾りをつけたり、おせち作りをしたり、お年玉の準備をしたり、紅白歌合戦を見て楽しんだり、新年が明けたら初詣に行き、親戚らと飲み交わすなどなど、この時期は、バタバタとしながらも新しい年を迎える準備をして、新年を迎え新たな気持ちに入れ替える作業を多くの人に取り組んでいると思います。

しかし、当院では、長期療養のために長きにわたり、入院をされている方も多くおられ、季節感をあまり感じないままに過ごす方も多くいらっしゃいます。

そこで、作業療法部門では、リハビリ室に「七尾リハビリ神社」を初めて建立しました。お賽銭箱や本坪鈴、おみくじも全てが作業療法士の手作りです。お賽銭も事前にこちらで用意し、いざ参拝を行うと、患者様からは「10数年ぶりに初詣した」と喜ばれたり、認知症のために普段は自分から行動を起こさないような方も自然と手を合わせたり、「昔は家族で〇〇神社へ初詣した」などとても穏やかな表情で話されたり、御家族の方とも数年ぶりに一緒に参拝し御家族がとても喜ばれる場面もありました。



作業療法士としても、とても良い作業を提供できたのではないかと感じ、今後も、入院患者様への生活の質の向上となる、季節感を感じてもらえるような作業を考えていきたいと思っています。

